

幼児教育と小学校教育の 円滑な接続を目指して

地域の
特色ある
活動

～「子どもの育ちと学びをつなぐ
接続期カリキュラム」の作成～

福岡県大野城市教育委員会

1 はじめに

大野城市は、福岡市の南に隣接し、古くから博多と太宰府を結ぶ交通の要所として繁栄してきました。今も、国道3号や九州自動車道、福岡都市高速道路、JRと西日本鉄道が通り、福岡空港にも近く、交通の便に恵まれた地域です。市の名称は、665年（天智4年）大城山（現四王寺山）に築かれた我が国最古の朝鮮式山城「大野城」に由来します。

本市には、10の公立小学校と約50の保育所（園）・幼稚園・幼保連携型認定こども園等があり、毎年約1,000人が市内の小学校に入学しています。

子供達が、幼児期にいずれの保育所（園）・幼稚園・認定こども園等を修了しても、幼児期にふさわしい育ちと学びがみられるようにすることが望ましいと考えます。さらに、子供の育ちと学びが連続性を有するものであることを踏まえると、年長児期から小学校入学期まで、子供の発達状況を十分に把握した上で、一人一人の子供の状況に応じた子育て支援につなげていくことが求められます。

そこで、本市では、平成29年の幼稚園教育要領等及び小学校学習指導要領の改訂を受け、幼児教育と小学校教育の教育課程を円滑につなぐために、令和3年度から「子どもの育ちと学びをつなぐ接続期カリキュラム」という冊子の作成に取り組み始めました。

2 「接続期カリキュラム」の作成

(1) 「接続期カリキュラム」とは

接続期カリキュラムとは、幼児期の学びが小学校生活や学習に生かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラム、「アプローチカリキュラム」と、幼児教育の成果を積極的に生かし、子供の成長という基本的な視点で入学当初の子供の安心・成長・自立をめざす小学校入学期のカリキュラム、「スタートカリキュラム」の双方を包括したものです。



接続期カリキュラム

(2) 本冊子作成の経緯

本冊子「接続期カリキュラム」を作成するために、まず作成委員会（保育所・幼稚園等から7名、小学校から4名、教育委員会及び市役所担当課から4名の計15名）を組織しました。

コロナ禍で教育活動に関する制限がある中、作成委員の所属する各所（園）・各校においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点を踏まえカリキュラムのモデルを作成し、様々な取組につなげることができました。保育所（園）・幼稚園等では、幼児期の遊びの中に見られる「学びの芽

生え」を「10の姿」に基づいて丁寧に見取り、小学校の先生方にも伝わるように言語化しました。一方小学校では、幼児期の遊びが教科の内容にどうつながるかを意識しながら、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の中で、「10の姿」が発揮できるように手立ての工夫を行いました。そして、保幼小で学びの連続性や一貫性を図ることができているかについて作成委員会で協議をしながら冊子にまとめていきました。

3 「接続期カリキュラム」の特徴

本冊子には、次の4つの特徴があります。

1つ目は、理論編で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手掛かりとして、大野城市の保幼小接続に関する考え方を丁寧に解説していることです。保幼小接続が求められる背景や幼児教育と小学校教育の違いから、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成手順に至るまで、事例等を具体的に示し分かりやすく述べています。

2つ目は、実践編で、豊富な実践事例を収録し、幼児期の遊びの中でどのような「10の姿」の育ちが見られ、小学校でその姿がどう発揮されているかを表記していることです。特に実践事例については、教師（保育士）と子供の発言でまとめ、写真を取り入れながら活動の様子が伝わるように工夫しました。

A保育園では、共同制作を通して友達のいろいろな面を知り関係を広げてほしいと考え、「街づくり」に取り組みました。11日間に及ぶ継続的な活動を通して、子供達には「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」「協同性」の育ちが見られました。

B小学校では、生活科「がっこうだいすき」の学習で、このような幼児期の体験を生かし、全員が役割をもち、友達が協力しながら仲良く活動でき



「みんなのまちをつくろう」

るようにと3人の小グループで学校探検に取り組みました。「10の姿」の「協同性」や「自立心」等を発揮しながら主体的に活動に取り組んでいる様子が見られました。



「がっこうだいすき」

3つ目は、同じく実践編で、保育所や大野城市子ども療育支援センターでの特別な支援が必要な子供への実践を収録していることです。子供の実態や保護者の願いを踏まえた取組と保護者・関係機関・小学校との連携について分かりやすく述べています。

4つ目は、資料編として、平成29年度に大野城市教育委員会が発行した「就学前より入学後までの学びの基礎づくり」手引き（第2版）から指導時に役立つ掲示資料を掲載していることです。

4 おわりに

保育所（園）・幼稚園等と小学校の教育課程をつなげていく（接続）ためには、児童・園児や先生方同士の人的な交流（連携）を通して、子供達の実態はもちろん教育内容や方法等の相互理解を深めていく必要もあります。大野城市では、平成20年度から保育所（園）長・幼稚園長・小学校長合同会議を実施し、子供の育ちの実態等について積極的に情報交換を行い、保幼小の連携に努めてきました。

これからも、これらの取組を充実させ、保幼小の連携・接続を益々深めていきたいと考えています。



教育長
伊藤 啓二